

にこにこ情報

竹とんぼ



発行 社会福祉法人緑樹会

〒904-0021 沖縄市胡屋7-2-10
電話 098-930-2525(にこにこ)
FAX 098-933-1324
ホームページ <https://www.ryokujukai.or.jp/>
メール info@ryokujukai.or.jp



飛行日誌



私はこれまで人から匿名(文書)で、抗議もしくは強い非難を受けたことが二度ある。もちろん、口頭を含めるとそれこそ数えきれないくらいの数になると思うが。

匿名の一度目は、三十年くらい前のことで、職場の机の上に「あなたの煙草で迷惑しています。他人のことも考え、仕事の席では煙草を吸うのはやめてください」というメモ書きが置かれていた。今ではちよつと考えられないけれど、当時は煙草を吸いながら業務をしていて、いつも机の灰皿は煙草の吸殻が山になっていた。

二度目はつい二年前東京の大病院に入院した二日目の朝に、ベッドのサイドテーブルに「あなたのイビキが酷くて一睡もできませんでした。他人のことも考えて対処して下さい」との書き置きがあった。結婚当時から妻とは別の寝室なので、自分のイビキのことについて言われたこともないし、考えたこともなかった。イビキは喫煙とは違って自分の意思で解決するのは難しいものがある。それで、東京に居る弟に頼んで、イビキ防止グッズを買って来てもらってその日の夜からさつそく試してみた。

まずは口閉じテープを唇に貼って、それに顎固定サポーターをつけて寝た。イビキが気になってなかなか眠れなかったが、朝起きると唇に貼ったはずのテープはガムのような口の中にあっただ。これではたぶんイビキ防止の効果はなかっただろうと思った。それから二日して隣のベッドの人が別の部屋に移って行った。看護師にイビキのことを含めてその人の転室のことを訊くと「神経質な人ですから気にしないでください」と言われた。若い時に入院経験のある私は、病室での他人のイビキの恐ろしさをよく知っている。微妙なテンポや音量を変えて、夜通し鼓膜を叩き続けられるのはまさに拷問である。よつぽどその人に謝ろうかと思っただけで、謝ったところでどうにかなるわけでもないで黙っているしかなかった。

話はちよつと飛躍するが、心理学者のエーリヒ・フロムは「人はヒューマン・ビーイング(生きていくだけではない)であるべきだが、今の私たちはヒューマン・ドゥイング(何が出来るか)が重視され、特に実利的な生産性に価値が置かれがちだと言う。

人生の目的は「何をすべきか」ではなく、「どんな存在であるか」という哲学論もわかるけれど、イビキのように生きていくだけで他人に迷惑をかけている人はどんな存在なのか考えてしまう。ただ存在するのもそう簡単なことではないように思う。

(富永健)



ご長寿をお祝い申し上げます!



ケアハウスていんさぐめ花 敬老会



9月20日(火)、ケアハウスていんさぐめ花では『敬老会』を各フロアで開催した。幕開けは職員による演舞「かぎやで風節」を披露。その後、小渡施設長の挨拶、乾杯と続き、節目の祝いとなる寿迎者(新百歳四名、カジマヤー一名、トーチカチ一名、トウシビー三名)の紹介が行われ、記念品が贈呈された。また、當眞清子さんのご家族から風車の寄贈もあり、利用者の皆さんへ配られ、喜ばれていた。利用者の皆さんからは「たくさんプレゼントありがとうございます」と感謝の言葉があった。最後にカチャーシーを参加者全員で踊り、敬老会は幕を閉じた。(崎山美加代)



新百歳祝 比嘉ミネ様

新百歳祝 野原千代様

新百歳祝 名幸ハル様

新百歳祝 喜屋武ハツエ様

祝 百歳

ケアハウスていんさぐめ花では、四名の方が100歳を迎えられました!



緑樹苑デイサービスセンター 敬老会

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)緑樹苑 敬老会



9月19日(月)の敬老の日に緑樹苑デイサービスセンターでは敬老会が開かれた。今年は一カチ二名、カジマヤー一名、計三名が節目のお祝いを迎えた。カジマヤーを迎えた方は家族様持参の衣装を着て、飾り付けされた車イスで舞台から登場。少し照れた様子で会場内を移動しながら皆さんに手を振り、パレードさながらに入場した。

職員による「かぎやで風」が披露され、その後、改めてカジマヤーとトーカチの利用者を紹介。みどり学童クラブから敬老の日のお祝いメッセージ動画では、「可愛いね」と皆さん笑顔でご覧になっていた。

職員による余興では、エイサーが披露され、踊りや太鼓、三線の音色に利用者から「イヤサッサー」と元気のいいかけ声も出た。エイサーの最後は利用



者様も職員もみんなでお祝いした。記念写真の撮影では、照れ笑いや緊張する方もいて、一人ずつ写真撮影を行い、トーカチとカジマヤー祝いの方にはデイサービスからお祝い状が贈られた。

また、利用者の皆さん一人ずつに、口腔ケア用のコップ、マイバッグ、ハンカチをセットにしたプレゼントが全員に贈られた。笑顔いっぱい敬老会となった。(源河康弘)



介護老人福祉施設緑樹苑では、9月20日(火)に感染対策を行いながら敬老会を開催した。コロナ禍にあり様々な行事が開催できない中、利用者皆さんのおかげで令和四年度の特養敬老会を行うことができた。

職員による「かぎやで風」で幕開け。司会の挨拶ののち、兼城正彦施設長が利用者の皆さんにお祝いの言葉を述べた。

次に利用者を代表して高江洲ルツ子さんと兼城施設長がお屠蘇で乾杯をした。

令和四年度は、カジマヤー三名、トーカチ四名、生年祝い六名が長寿のお祝いを迎えられ、一人ずつ紹介し記念品が贈られた。

余興では、仲宗根亮主任による獅子舞が披露され、邪気を払い皆様の健康と長寿を祈願した。

最後にカチャーシーを利用者の皆さんと職員で踊り、敬老会を終えた。(具志堅勝)



散髪してサッパリ！ ケアハウスはいびすかす



9月10日(土)、16日(金)、17日(土)の三日間、カットハウス『セリ・ジーナ』さんがはいびすかすを訪れ、利用者44名の散髪を行った。コロナ禍の影響により依頼することができず、約半年ぶりの散髪となった。伸びた髪を美容師さんに綺麗にカットしてもらい、利用者の皆さんとてもスッキリされた様子で喜んでいました。



職員工ッセイ



緑樹苑宿直員 宇榮原 猛

私の趣味のカラオケについてお話ししたいと思います。カラオケは、皆さんおなじみの用意されたカラオケ伴奏にのせて歌うことです。個室に分かれたカラオケボックスへ行かれたこともあるかと思いますが、特に、今シニア世代からの支持を集めているのが「カラオケ喫茶」という飲食店です。カラオケ喫茶とは、お店の規模にもよりますが、10人以上の客が集まれるホール席があり、その上座にカラオケで歌を披露するステージが設けられているお店です。歌う順番が来たらステージへ上がり、歌唱し、出番が終われば次の人の歌を聞き、一緒に口ずさんだり、拍手で盛り上げたりと。友人知人はもちろん老若男女、カラオケ好きが集い、ひとつのコミュニティが形成された常連さんたちの憩いの場となっています。

歌といえば、今「音楽療法」と呼ばれる音楽を利用した療養方法が老人ホームや医療機関などで用いられることがあるそうです。脳と

身体機能に効果があると言われており、例えば、「回想法」と呼ばれる治療があり、認知症の傾向が見られる場合、最近のことは覚えていなくても、昔の出来事の記憶は確かな場合が多いそうです。特に、昔好んで聴いていた曲を聴いたり歌ったりすることで当時の記憶が鮮明によりみがえり、その記憶をたどろうと脳を働かせることで認知症の予防や改善へとつながるとされています。懐かしい曲を口ずさむと「幸せホルモン」と呼ばれる物質が分泌され、リラックス効果もあり、楽しい気分になれるとともに、脳の活性化にも期待できると言われています。

カラオケは、社会との接点を持つ機会へつながりやすい趣味のひとつとして、社会の中の一員として交流を持ち、役割を持つことは『生きがい』に直結します。

職業人としての現役時代は、仕事で社会とのつながりの役割として機能していることは確かだと思っています。

趣味は老後になってからと先延ばしせず、週末だけ、あるいは一日三十分だけでも、趣味の時間や習慣を取り入れて、これをきっかけに意識的にまた積極的に社会とのつながりを持ちたいものです。

8月・9月手作りおやつ会 緑樹苑デイサービスセンター



8月25日(木)、緑樹苑デイサービスセンターの手作りおやつ会は、色とりどりで見た目にも涼し気な『冷や麦』。暑さに負けないようにと厨房調理員の皆さんが準備し、利用者の方にもネギや海苔の盛り付けを手伝っていただいた。施設内で採れた付け合わせのシークワーサーの爽やかな香りが食欲をそそり、つるつと喉ごしの良い冷や麦を皆さん美味しそうに召し上がっていた。(源河康弘)

8月「冷や麦」



9月「ヒラヤーチー」

9月7日(水)の手作りおやつ会では、「ヒラヤーチー」。利用者の皆さんに交代で作っていただいた。焼き上げていると美味しそうなお匂いがホール内に広がり「お腹が空いた」「早くたべたいね」といった声が上がリ、待ちきれない様子。できたてのヒラヤーチーを早速みんなで美味しく召し上がった。おかわり頂戴といった声も聞かれ、皆さん満足した様子であった。(知念綾乃)



